

本実践の位置づけと経緯

堀籠 崇 (新潟大学創生学部)

研究会創設の背景

この度の学生主体のプロジェクト実践（以下、学生プロジェクト）の位置づけ、ならびにその経緯について記すにあたっては、学生プロジェクトに先立って新潟大学創生学部有志教員により専門領域を超えた研究会を始動するに至った経緯と、狙い、内部での議論について整理しておく必要がある。

平成 29 年 4 月、日本海側で随一の規模を誇る総合大学として長きにわたり地域社会に有為な人材を輩出してきた新潟大学において、37 年ぶりの新設学部である創生学部が産声を上げた。従来型の教育プログラムとは全く異なる教育プログラムを持つ創生学部は、複雑に入り組んだ現代社会が抱える様々な社会課題に対して、学問分野の枠を超えた多面的な視角からその解決策を講じることのできる人材の育成が期待されている。以下、やや長くなるが創生学部の有する教育理念と目標について、ホームページの記載を引用する。

創生学部は、新潟大学の総合大学としての豊富な教育資源を活用して、学生が自らのキャリア形成をイメージして定める自分の課題と目標を持って学修する「到達目標創生型」学位プログラムを提供しています。そして、このプログラムでの学修によって、自己の人材価値を生涯にわたって能動的に高めていくことができる人材、「自己創造型学修者」の育成を目標としています。

すなわち、課題解決型学修中心の授業科目による「リテラシー学修」と自ら選択する専門領域の学修によって、多面的で複雑化した社会における課題を抽出し、その解決に必要な知識を獲得でき、分野の異なる他者と協働して、論理的思考と科学的根拠に基づいた課題解決ができる人材の育成を目指しています。

なお、リテラシーとは、複数の領域の見地から物事を「見る力」、異なる環境（状況）に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネート

する力」といった生涯にわたって学修し続けるために必要な能力を意味します。(新潟大学ホームページ)

こうした学部理念のもと、創生学部には人文社会・教育科学系から自然科学系に至るまで、多岐にわたる分野の専任教員が所属している。

さて、それぞれの教員が専門とする学問領域の知識、思考枠組みを学生らに教授していく過程において、教員ら自身、自らの専門とする学問の実社会との接合や可能性について省察する機会を得ることとなった。そのようななかで各自に、新たな人材育成を志向するにあたっては、その基礎に分野の枠を超えた研究のプラットフォームを構築することが必要なのではないかとの思いが芽生えてきた。

そこで平成 29 年 7 月頃より、創生学部研究推進委員の一部教員の声がけにより、共同研究の可能性を探る活動がスタートし、以後数次にわたる議論を経て、11 月には有志による「共同研究準備研究会」が発足した。その後名称については、参加メンバーの共通のキーワードであり、創生学部の理念とも深く関連するという意味合いから「キャリア」を据えて「キャリア創生研究会（仮）」となった。なお、名称を（仮）としているのは、創生学部における研究推進委員会の一部メンバーを中心とする研究推進の試行的取り組みとして、ひとまず各研究領域で比較的共有可能な「キャリア」概念を掲げて始動するものの、今後の研究の発展可能性を見込んでおり、名称変更に含みを持たせているためである。

本実践の位置づけと経緯

さて、本研究会が本格始動して以降、おおむね月 1 回ペースで研究会が開催され、徐々に参加メンバー間での問題意識の共有がはかられてきた。以下、当該研究会での議論から学生プロジェクトの実施に至った経緯と、位置づけについて記しておきたい。ちなみに、これまでの研究会における報告者と論題は下記のとおりである。

2017年11月9日

渡邊洋子「初年次教育におけるキャリアの位置づけと教育的対応をめぐる」

2017年12月14日

中村隆志「文学・人文学領域における学部教育」
並川努「学部で学ぶ心理学とキャリア」
堀籠崇「経営・経済系学部におけるキャリア教育」

2018年1月24日

堀籠崇「K大学の教育改革とキャリア教育について（事前調査報告）」

「共同研究準備研究会」として実施された初回の研究会では、渡邊（2017）より、のちに本研究会において主要な研究テーマの一つとして取り組まれることとなる「キャリア教育」に関する問題提起がなされた。すなわち渡邊（2017）によれば、教師主導型を基盤とする中等教育の学習から高等教育で求められる自己主導型学習への転換点として捉えた場合の初年次教育において、カギとなるのは、自らの生き方や働き方、そして将来設計や生涯的展望などといった「生涯キャリアデザイン」である。転換点としての初年次教育における「生涯キャリアデザイン」の可否を問う渡邊（2017）の研究構想の紹介と問題提起を受けて、まさに「自己創造型学修者」の育成を目標とする創生学部所属の専任教員である我々研究会メンバーにとって、共同で取り組む研究テーマにふさわしいのではないかと考えから、以後渡邊（2017）の問題提起をベースとして、それぞれのメンバーが自身のバックボーンである学問領域に即して、それぞれの学問領域とキャリア・学部教育の接合性と、そこでのキャリア教育の違いについて調査を継続していった。

他方で研究課題としてもさることながら、新設学部として産声を上げたばかりの状況下にある今こそ「初年次教育」と「生涯キャリアデザイン」の接合点を問うことに大きな意義があるとの認識も共有されることとなった。ここにおいて、学生プロジェクトの実施が検討されるに至るのである。

学生による企画・運営の経緯と今後について

創生学部は「定められた一つの学問分野を軸に学ん

でいく従来の学部とは異なり、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を学んでいく」（新潟大学、2018、p.45）教育プログラムを展開している。従来の学部教育であれば、医歯・薬学系ほど専門教育と卒後のキャリアとが関連づいてはいないにしても、文学部や経済学部、農学部などであっても、学生の中で卒後のキャリアについて、漠然としたイメージは描けるかもしれない。しかしながら、創生学部においては入学初期段階で学ぶ専門領域は決まっておらず、したがって卒後のキャリアについての漠然としたイメージもない、まったくの無の状態から、学生は大学での学びをスタートさせることになる¹。自ら目標を設定し、課題や専門領域の選択を促す創生学部の教育において、我々はこうした状態をどう考えればよいのであろうか。

そこで、初年次教育をその後の4年間の充実した学びとキャリア形成につなげるために、学生自身のキャリア形成に向けた認識の広がりを目指して、関心のある学生有志による「創生学生キャリア研究会」を組織し、学生自身の手による主体的な「キャリア形成」にかかわるイベント企画を実施することとした。主体的なイベント企画による疑似的な目的・目標設定と、これに即したPDCAサイクルの体験は、いかにキャリア意識の変容とその後の大学での学びに対する動機づけとなるか、あるいはならないか。

今回はその第1回目の取組である。今後我々自身の研究推進とも連動しながら、引き続き学生の主体的な取り組みを支援しつつ、経時的に彼らの行方を見守っていきたい。

引用文献

- 中村隆志（2017）. 文学・人文学領域における学部教育
キャリア創生研究会（仮）報告資料（未刊行：2017
年12月14日）
並川努（2017）. 学部で学ぶ心理学とキャリア
キャリア創生研究会（仮）報告資料（未刊行：2017年12
月14日）
新潟大学（2018）. 大学案内2018 新潟大学
新潟大学ホームページ. <https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/creation/feature/>（最終閲覧日：2018
年3月31日）
堀籠崇（2017）. 経営・経済系学部におけるキャリア教

¹ 無論通常の学部教育においても、個々の学生によって自身の将来ビジョンを、早い段階で描けている学生とそうではない学生は存在しようが、筆者はそれぞれの学部ごとにキャリア形成について、ある種のパターンは見出しうるのではないかと考えている。

育 キャリア創生研究会（仮）報告資料（未刊行：
2017年12月14日）

堀籠崇（2018）. K大学の教育改革とキャリア教育につ
いて（事前調査報告） キャリア創生研究会（仮）
報告資料（未刊行：2018年1月24日）

渡邊洋子（2017）. 初年次教育におけるキャリアの位
置づけと教育的対応をめぐって 共同研究準備研
究会報告資料（未刊行：2017年11月9日）